

第二章 第百二十三師團の状況

第一節 師團の編成より蘇聯参戦迄の状況

要旨

第百二十三師團は昭和二十年三月十日滿洲黒龍江省孫吳に於て編成せられたり。其の骨幹となりたるは獨立混成第七十八旅團なり。

編成當時に於ける兵の素質は不良にして而かも開戦迄に編成替へに次ぐに編成替を以てせる為各部隊の團結、教育、訓練に大なる支障を來したり。

師團は斯る悪条件の下に萬難を併して作戦準備の爲の教育と築城を行ひたる結果、開戦時に於ては概ね防衛戦團の遂行可能の域に達しありたり。

開戦時に於ける師團の戦力は編制裝備、團結、將兵の素質等を綜合すれば概ね歩兵一聯隊を基幹とする一支隊の程度と見て大差なし。

第一 師團の編成より昭和二十年五月末頃迄の状況

一、常駐配置 附圖第一の如し

二、作戰準備状況

1. 作戰計畫

師團の編成完結より昭和二十年五月末頃迄の間は期間も短かく且其の間編成非常に多く態勢亦浮動しありて作戰計畫を決定し得ざりし爲旧獨立混成第七十八旅團の計畫を踏襲せり。

2. 築城

師團正面には奇克特、勝武屯、坡埠、神武屯附近に直接黒龍江に沿つて建造せられたるもの及北孫吳附近に建設せられたるコンクリート製永久築城あり。本築城施設は其の目的及守備兵力に於て現状と相違あるのみならず施設稍く旧式にして予想する師團の作戰に利用し得るものは其の一部に過ぎざりき。

3. 後方準備

師團は第四軍師團の在孫吳各補給廠より總ての補給を受けあり。

此等補給廠は從來の作戦準備の結果頗る膨大なるものなりき。
交通、通信

黒河、孫吳、北安、哈爾濱道及同上の鐵道（濱北線、北黒線）を
主要幹線とせるも対空防護施設は無し。

対地上防護の施設としては主要なる橋梁にベトン製火点を有し平
時は配兵しあらず。

江岸警備隊よりの警備通信は平素より完備せられ、軍司令部と各
警備部隊間に直通電話を有し主要な警備部隊間には無線の副通信
施設を有したり。

3. 教育訓練

師團の教育訓練は予想する任務に基き左の諸項目に重点を置き専
ら孫吳附近の防禦戦團に應ずる教育訓練を實施せり

イ、既設陣地に據る防禦戦團

只、對戰軍肉迫攻撃

白兵格斗

二通信及歩兵重火器教育、砲兵對戰車射撃

ホ築城の教育

(四) 既設陣地に據る防禦戰闘

本教育の爲、師團は從來出入禁止地帯としてあつた孫吳附近の築城地帯に教育の爲出入する事を得しめ各部隊をして予想占領陣地に於て實際に即したる教育を行はしめたり。

軍に於ては當師團及在神武屯第一二五師團に命じて小隊防禦戰闘、對戰車戰闘及遠距離の模範教練を計畫實施せしめ之を兩師團の將校に見學せしめて幹部教育を行ひたり。此の教育は素質低き將校等に非常に有効なりき。

(四) 對戰車肉攻

本教育は特に重視し師團長以下悉く自ら肉攻の教育を受くると共に各部隊を査閲し大いに教育を推進せり。

イ 白兵格闘

白兵格闘は當時の兵の素質、戦場の教訓等に鑑み上司より特に勅諭（軍刀に於ても）を重視する如く指示ありしを以て此の主旨に基き軍並に師團に於て数回劍術競技会を催し相當の成績を収めたり。

ロ 通信、歩兵重火器、砲兵対戦車射撃各教育

師團の戦力上の弱点は特に通信及歩兵重火器教育にありしを以て、師團は奎園或は師團の計畫に基く演習等を行ひ成果の向上を計りたり。

尙対戦車射撃は砲兵として最も緊要とする情勢なりしを以て配属砲兵としての「対戦車射撃」につき十分の訓練を行はしめたり。

ハ 築城の教育

築城は師團作戦準備の重要事項にして五月下旬頃より全力を挙げて工事に着手せざるべからざるに一般の之に關する知識は頗

る不足なりしを以て軍は孫吳附近に一の模範陣地を造り之に依
つて各師團に教育を行ひ、陣團も亦之を利用して普及徹底を計
り、樂城開始迄には襪ね工事の實行に支障なきに到れり。

6. 情報収集

師團正面の蘇軍の情況及師團警備地域内の諸情報は黑龍江岸に直
接配備せる監視部隊、關係憲兵隊等よりの通報に依るの外全波の
情報、滿洲國側の情勢等は軍よりの通報に依りたり。

7. 國境警備

烏雲（一小）、奇克特（一中）、遜河（一小）、勝武屯（一大）
中欠、十加、二に夫々警備隊を配置し之等の部隊より江岸の要
点に監視哨を設置して対岸を警戒監視せしめたり。（附圖第一參

照）

其の報告は直接軍に有線若くは無線を以て行ふこと、規定せられ
たり。

三編制裝備の變動

1. 部隊の編成（動員）、編成改正、復歸

師團の編成完結後概ね一ヶ月半は比較的移動少なく教育訓練に精進し得たるも、爾後は關東軍の不斷の編成改正に依り相次いで兵員の抽出、派遣等ありて部隊の内容は常に變化し部下の掌握、教育訓練に著しき支障を來したり。然れども部隊其のものゝ編制改正は無かりき。

第二百二十三師團の編制及部隊長名は左の如し。

師團長	北澤貞次郎
歩兵第二百六十八聯隊長	山中高助
歩兵第二百六十九聯隊長	後藤三平
歩兵第二百七十聯隊長	太田紀一
野砲兵第二百二十三聯隊長	町田賢助
工兵第二百二十三聯隊長	広川文雄

輜重^兵第二百二十三聯隊長

阿部武雄

延進大隊長

露木菴造

師團通信隊長

長谷川義雄

兵器勤務隊長

清水吾一

病馬廠長

榎本由成

2. 部隊の増加

昭和二十年五月中旬第四軍司令部の孫吳より齊々哈爾移動に伴ひ在孫吳兵器廠及第四軍所管の補給關係諸倉庫は悉く師團の指揮下に入り業務は著しく増大せり。

3. 兵器、資材

師團は編成早々にして兵器資材は十分とは云ひ難かつた。即ち師團全設として後方の關係資材は比較的充實しありたるも第一疎兵稀等に擲彈筒、歩兵重火器、砲兵挽具不足し、作戰時砲兵の機動力を欠く状態なりき。

0757

一、配置又は配備の変更

八軍の方針は孫吳附近の主陣地にて抵抗し江岸に於ける大なる抵抗を期待せざる為逐次左の如く配置を変更せり。

A 奇克特以東の江岸警備隊の兵力を縮少して要点に監視哨を配置するに止め、奇克特には一小隊を配置す。

B 遜河の一小隊に奇克特より撤退する一小隊を加へ一中(一小隊)とす。

○勝武屯は前進陣地として最も重要なるを以て兵力を減少する事なく又部隊の素質も現役兵のみの部隊とし、編成替等に際しても人員の轉出入を努めて避け以て師團の部隊中最精銳を期したり。

○七月以降第六國境守備隊を基幹として獨混第三十五旅團を編成せられ師團の指揮下に入らしめられたるを以て師團の守備地域は廣

大せられたり。之より先神武屯駐屯第一二五師團は六月通化方面に移動せるを以て其の担任しありし地域も師團の管轄となりたり。依つて師團長は獨立混成第一三五旅團長に対し旧第二三五師團の管備地畝をも併せ管備を命じたり。

同旅團は黒河附近以北を歩兵一大隊を以て管備せしめたり。

3. 北安より移駐せる歩兵第二百六十九聯隊を孫吳の空兵舎に收容す。

六 作戰準備

1. 新作戰計畫

師團は六月頃迄に概ね左の如き作戰計畫を立案す。但し立案當時尙獨立混成第一三五旅團の指揮關係明確ならざりしを以て之が明示と同時に所定の修正を行へり。

第二百二十三師團作戰計畫の要旨

六 方針

一 孫吳附近の既設陣地を確保し敵を陣地内外に擊滅す敵若し一師

以て我に對せしめ、主力を以て南下する場合にありては、敵の脅威を脅威し、主力の作戦を容易ならしむ。
止むを得ざるも、既設陣地を死守し、増援部隊の來着を待つ、其の間は概ね三ヶ月とす。

三、要領

- 一、蘇軍の黒龍江渡河に當りては、沿岸警備部隊を以て極力之を妨し、其の渡河を過滞せしむ。
- 二、沿岸警備隊及監視哨は、防線の目的を達成せば、敵と接觸しつゝ、遂次主陣地内に後退せしむ。
- 三、後退の時期は監視哨は適時、警備隊は別命により、後退に際しては所要の進進部隊を各所に配置し、敵を攪亂す。
- 四、前項各部隊の撤退に際し、適時主要交通綫を破壊し、敵の前進を遅延せしむ。
- 五、各部隊は各々其の陣地を固守す。

各部隊は盛んに進進断込隊を派遣し敵の司令部、砲兵隊、戦車隊等を急襲し以て師團の戦闘を容易ならしむ

三 記 備

陣地占領要領附図第三の如し

四 現地住民の処置

日本人一地方人、軍人家族、義勇隊等は陣地内に收容し之を掩護す但戦闘参加を希望するものめらば死傷者の收容、看護、軍樂傳送等に使用することあり

五 補 給

戦闘開始迄に陣地内に各當該守備部隊の三ヶ月分の糧食及少くも一會戰分の弾藥を集積す

六 通信連絡

通信起点は師團司令部の位置とし第一線各部隊との間には有線通信網を構成す但し砲彈による切斷を願慮し地下埋設を行つと

0761

共に無線設備を十分に整備す
此の際無線探知による司令印位置の標定を願慮して無線發信所の位置を選定す
軍及其の後方との連絡は作戦開始と同時に常設有線通信を従とし無線通信を主とす

七 築城

築城は漸進構築法により、五月末迄に一般野戦築城を、七月末迄に野戦に於ける大口徑他の連續射撃に抗し得る如く地下設備を構築す

八 新施設及築城旧施設の処置

軍の作戦計畫に據り五月中旬頃より孫吳附近新陣地の構築に着手す。

師團は最初より補堅固なる野戦陣地の構築を企図したるも、軍の指令に基き左の如く漸進構築法により作業す

第一次

五月末迄

極劣なる野戦陣地

四〇

第二次

七月末迄

稍堅固なる野戦陣地に増強

右の備中餘裕ある部隊は更に地下十數米に及ぶ地下施設を構築し、尙武器、彈藥、糧食收容の爲師團經理部及兵器部に於て夫々地下施設を構築せり。

右の外師團の存続計畫に基き既存の陣地中防禦戰鬥に利用すべき部分の補修、封界の清掃、通信網の整備補修を行ひたり。

即當初軍は状況により線下の二ヶ師團を孫吳附近に集結して防禦戰鬥を實施する場合あるを考慮し師團は二ヶ師團を收容し得る陣地を構築せしめられたり。

其の後神武屯の師團兩方に移動するに至れるも陣地は依然として緊縮せられざりき。

又瓊瑛一、二站一、二江一齊々哈爾濱道掩護の爲二站附近に歩兵二、三大隊砲兵一大隊を基幹とする部隊の爲の陣地構築を命せられたり。

0763

(四) 歩兵陣地

敵の熾烈な砲撃、飛行機の爆撃及対地攻撃並に戦車の攻撃を顧慮して散兵坑を為し得る限り分散配置し且陣地直前及陣内に到る処に戦車肉迫攻撃の爲の潜伏坑を配置す。

歩兵重火器は陣地の内外を斜射側射する如く置き且各々若干の予備陣地を設けたり。

(五) 戦車に対しては砲兵の主力を第一線歩兵大隊に配属し之を歩兵陣地内に分散秘匿する如く陣地を構築す。

又三角断面の対戦車壕を陣地直前に構築し之を側防し得る如く砲兵陣地を配置せり。

尙師團陣地北側の谷地には谷流を利用して氾濫を起し得る様に準備す。

(六) 砲兵陣地の内一部は砲兵隊長の直轄として陣地の中央附近に設けり。既設陣地内に在りし二四榴四門は其の儘現位置に置き

たり。

(丙) 主要通信網は地下に埋没せり。

(丁) 各部隊の占領地内には當該部隊の爲の彈藥糧食の集積所を設
備せり。又時間の餘裕に従ひ地下若くは山腹に深く洞窟を掘開
せり。

(ト) 二所の陣地は援軍部隊に若干の師團工兵隊を配属して構築を
開始せり。時既に七月中旬なりしが督促之努めたる結果七月末頃
辛うじて野戦陣地を完成せるも津路、糧食の集積は甚だ不十分
なるものなりき。

3. 後方（兵站）關係

第四軍司令部移動以後に於ける補給は直接前線に於て現地の倉庫
より行ひたり。

軍需品は糧食にして作戰には十分間に合ふ丈の數量を有したり。

公共交通、通信

軍の設備を其の儘師團に引継ぎたるを以て特に變更の必要なかり
き。

5. 教育、訓練

特に教育訓練の變更を來したるものなきも、人員の移動、編成攻
正等頻繁に行はれたると而かも其の當時陣地構築に全力を挙げて
着手し各部隊は工事の現場に起居して是に専念しありたる為、教
育訓練の必要を痛感しつゝも徹底せる教育を行ふを得ざりき。
各部隊は工事現場に於て朝夕の餘暇を利用し射撃、肉攻、銃剣操
等の教育を行ひ技能の練磨と士氣の昂揚を図りたり。

6. 情報収集

第四軍司令部の移駐に伴ひ情報は各江岸監視部隊より直接師團が
受領することゝなれり。加之情報収集の範囲は広大なる地域に廣
張せるを以て通信連絡の設備を一層整備し且黒河特務機關及憲兵
隊と連絡を密にして万全を期したり。

三編制、裝備の變動

1. 部隊の編成

(1) 六月末師團挺進大隊を編成せられたり。

長は砲兵大尉 露木甚造 人員 一一一三名

(2) 七月末孫吳憲兵隊は廢止せられ、憲兵其の他の部隊を以て特別警備隊を編成せらるゝ事となり、師團は大いに其の編成を援助したが開戦迄に編成完結せず。

長は憲兵少佐 田中是直なり。

2. 兵隊資材の變動

(1) 兵隊資材關係に於て師團が最も不安に感じたるは、対戦車爆薬の不足なりき。

師團は百万手段を尽して之を製造し各部隊に分配せるも其の數少く所望の量に達し得ざりき。

(2) 開戦直前勝武屯警備隊にある十加及其の彈藥抽出轉用すること

となり、其の大部を運送し終りたる時開戦となり、師團は十加
一門と少數の彈藥を有するのみとなれり。

イ 孫吳に在りたる築城及建築材料を軍命令により多量齊々哈爾方
面へ輸送せり。

第三 対蘇作戰實行期の状況

一 蘇聯参戦直前の態勢

イ 兵力配置

附圖第二の如し。

ニ 戦力状況

蘇聯参戦時に於ける師團の戦力は冒頭に記載せる如く其の實力歩
兵一聯隊、砲兵一大隊を基幹とせる支隊程度なり。尙獨立混成
第三百三十五旅團の戦力は、師團に比し團結、築城、訓練等遙かに
優秀なりし爲、實力に於ては師團と大差なきものと判断す。

一 同旅團は從來の既設陣地で戦闘を終始せり。

0768

右の外開戦に方りては當時孫吳に在りたる左配部隊は別命なく師
團に配属せらる。四六

(1) 關東軍特種情報隊の一部

(2) 關東軍防没給水部孫吳支部

(3) 特別警備隊の一部

第十八野戦兵器廠にルノノ旧型戦車及装甲車各一台ありしを以て
陣地の中央に秘匿配置せり。

尙部隊中には朝鮮人にして初めて徴兵として入隊せる者及開戦直
前招集せられて入隊せる者多敷ありたり。

3. 作戦準備の程度

孫吳附近の陣地は計聲に基き概ね七月下旬頃構築を了りたるが更
に時間の許す限り補強する目的を以て地下棲息所、彈藥集積所等
比較的深き地下工事に着手せるも未だ完成せざるに開戦となれり。
陣地は直ちに作戦に支障なき状態なりしも彈藥糧食の集積は未だ

0789

十分ならざりき。

依て師團は為し得る限り速かに計量に應ずる彈藥糧食の集積に着
手せるも當時連日の降雨の爲道路泥濘を極め自動車の運行意の明
くならず所架の數量を集積し待ざる間に戦闘開始となれり。

各部隊の狀態

部隊は概ね作戰計畫に基き守備陣地に在つて築城作業を行ひあり
たるを以て開戦と共に第一線部隊は若干の配備變更を行ひたるの
みにして直ちに其の應戦團の態勢に入りたり。

瀨東軍特種情報隊は予定計畫に基き師團司令部附近の陣地に、防
疫給水部は師團予備隊の位置たる陣地中央の凹地に位置す。第十
八野戦兵隊は所命の位置に就く事なく陣地外の既設陣地に入り
たり。

遼寧、立河を隔て、主陣地に對する南陽山（勝武屯―北安道上）は
勝武屯警備隊隊退の後之を占領する豫定をりしが戦況之を許

さざるを采じ、師團延進隊をして之を占領せしめ挺進攻撃の據点とし併せて敵の南下を阻止せしむることとせり。而して勝武屯營備隊は直路主力の陣地内に後送して師團後備隊となる如く計畫を變更せり。

六、孫連參戰當時の情況

一、作戰に影響せる天候氣象

七月末頃より八月初頭に亘り降雨連続し、開戦當時は孫吳附近の道路は車輛の通過に非常な困難を來したり。又孫吳―北安―哈爾濱道は河川氾濫して通行至難になれるのみならず、哈爾濱―孫吳間の鐵道も亦通育河の氾濫により作戰初期より一貫せる運行不能となり途中徒歩連絡によるに至れり。

二、作戰直前に師團の特たる敵情

全般情勢に關しては軍より何の通報も受領せず。師團としては何等判断すへき情報なく單に新聞等に依り當分蘇軍の出撃は無かる

へく若し有りとなれば來春不戰条約滿了後なるべしと推測しありたり。

五月末頃より師團警備地域の対岸に於て蘇兵の演習繰り返され且之と同時に奇克特前面の引込線に卸下施設らしきものを設備せるも師團は蘇軍演習の爲の施設なるべしと判断しありたり。
八月初頭奇克特前面の河岸に蘇軍將校五六名出現し地図を窺しあるを目撃す。

又概ね其の頃軍參謀牧大佐は飛行機により黒龍江に沿ひ師團作戰地域の上空を飛翔し敵地帯の極めて平靜なるを報告せり。

三爾後の作戰經過

作戰第一日（八月九日）

五時頃滿洲國の東西兩國境を突破して有力なる蘇軍進入を開始せる旨の通報あり。

師團は直ちに之を減下諸部隊に傳達し戰團展開に就かしむると共に

引續き陣地の補修、兵隊糧食、糧食の集積を一層強行すへきを命令す。

○
壕陣部隊の陣地占領に關しては軍司令官より特に「一部を以て壕陣附近を主力を以て二站附近を占領せしむべき」旨命令せられたり。軍としては敵機械化部隊の直路齊々哈爾に突進するを願慮したる為なり。然れども二站附近の陣地は溝壕着手廻かりし為開戦當時に於て辛うして輕易なる野戦陣地を構築したる程度にして彈藥糧食の集積殆んどなく頑強なる抵抗は到底期待し得ざる状態なりき。従つて今之に有力なる壕陣部隊の主力を投入して防禦せしむる事は師團の戦力を著しく減殺し結局軍の爲に有利ならざるべき見地より、一部を以て二站、主力を以て壕陣を防禦する様再三意見を述べても軍の容るゝ処とならず。遂に師團長も亦混成旅團長に命ずるに軍司令官の意図を以てせり。

獨立混成第一三五旅團長は師團の意見が軍司令官に容れられざるを知

0773

るや師團命令にも拘はらず、玉力を破壊に一部を二站に配置して戦闘準備を整へたり。

師團司令部は十八時陣地内の予定位置を移動し孫吳街の司令部廳舎は之を焼却す。

江岸警備隊及監視哨は一層監視を厳にし且敵の渡河企図に対し特に十分なる監視と迅速なる報告を行ふ如く指導せるも此の日勝武屯対岸及奇克特対岸附近の熱江上に中型汽船の上下航するを散見したるのみにして平靜なりき。

師團は敵の渡河を今、明日中の夜間ならんと判断し、眞面目の戦闘開始迄に為し得る限り多くの弾薬資材及糧食を陣地に搬入する如く警助す。

然れども數日來の降雨の和道路破壊し集積容易に進捗せず。

作戰第二日（八月十日）

狀況は概ね前日に同じく敵の偵察飛行盛んに行はる。

昨夜以來有力なる敵部隊は黒河上流方面に於て渡河を開始し、呼瑪^{五二}及其の下流の沿岸警備隊の消息不明となり、全滅の報亦頻りに傳へらる。師團は敵の眞面目の渡河は或は此の方面より行はるゝに非ずやとして警戒を嚴にす。

本日以降無龍江省内に居住せる在郷軍人は三々五々隱名して陣地に直接入隊し來れり。

作戰第三日（八月十一日）

本日敵は勝武屯及凌軍正面より一齊に渡河を開始し夜に入るも之を續行す。各江岸警備部隊は予定計畫に基き戦闘を開始し、賊中勝武屯の村上警備隊は警戒之勞の強直せられたる十加を以て黒龍江河岸に散陣しある敵機械化砲兵と交戦し相當の損害を與へたるも彈丸不足の爲極度に節約しつゝ好機に投して射撃す。

此夜彈藥補充の爲砲重隊より三回に亘り村上部隊に小隊を派遣せるも、目的を達したるは一回のみにして他の二回は既に我が警備部隊

0775

を侵透して進入せる敵小部隊の妨阻止せられ目的を達成し得ず。

作戦第四日（八月十二日）

師團は昨十一日に引續き熱龍江を渡河し勝武屯及壕壕陣地を攻撃す
師團は當初勝武屯の警戒陣地は輕戦の後後退せしむる計畫なりしも、
主陣地内の彈藥及糧食の集積準備希望通り容易に進捗せざりし爲止
むを得ず時間の餘裕を得る目的を以て、村上勝武屯警戒部隊に別命あ
る迄頑強なる抵抗を續行すべきを命じ且彈藥糧食の集積を一層督促
す。各部隊就中輜重隊は必死の努力を繼續し愚路を排して集積に努
力す。

此の日夕刻軍より敵の熱龍江半渡に乘して出撃を嚙漁し來りしも、
敵機銃化部隊既に壕壕方面に於ても渡河しある現況に於て妄りに陣
地を捨て、遠く勝武屯方向に突進することは航空及戰車等の支援を
期し得ざる現況に於ては適當ならずと認め實行せず。

此の夜師團配属の關東軍特種情報隊より一敵の有力なる機銃化部隊

らしきもの壕溝方面にあり又別に同様有力な戦車部隊らしきもの奇
克特附近より南進し遂次遼河（地名）に近接しつゝあるものゝ如し

との電波情報を提出せり。

依て師團は（中）歩兵第二師団を孫吳、遼河（地名）道上既設前進陣地に

急派し、勝武屯警備隊の右翼に連繫して陣地を占領し遼河方面より
前進する敵を阻止せしむ。

此の日師團當面の敵兵力を左の如く判断せり。

1. 勝武屯及奇克特附近より渡河しつゝあるもの

歩兵師團 二 機械化兵團 一

2. 壕溝方面より渡河しつゝあるもの

歩兵約半師團 機械化兵團 一

尙黒河附近及其の以北より若干渡河したるものあるも詳細不明なり。

師團は敵の進攻を顧慮し軍關係の宿舎、兵營、倉庫其他敵の利用の

虞ある諸施設を敵に近き方より逐次焼却を開始す。

作戦第五日（八月十三日）

本日敵の渡河及前進部隊に対する攻撃は活潑ならず。

作戦第六日（八月十四日）

師團の彈薬及糧食の集積は概ね目録を達成し、彈薬は概ね一會戰分を
集積し、糧食は若干不足を以て全般の状況上師團長は
十四日二十四時先づ平岡部隊を引續き勝武屯の村上部隊の撤退を命
ず。

夜に入ると共に勝武屯陣地に河する敵の攻撃は猛烈を極め其の主力
は勝武屯と平岡部隊陣地の間隙に深く浸透し來ると共に敵の戦車は
勝武屯―孫吳道を突破して孫吳方面に突進し來れり。又奇克特附近
より渡河せる敵機械化部隊は河岸に沿ひ勝武屯に近く移動し來れり。
平岡部隊は師團命令に依り夜半陣地を撤して主陣地に向ひ後退中、
遼寧河とエウル河との合流点附近に於て濃霧中勝武屯方向より南
下し來れる蘇軍戦車隊と不意に衝突し、平岡少佐は戦死し其の他の

者は遜平立河を渡り、南陽山附近に集結せり。遜河（地名）を経て平

五六

0779

間部隊正面に進出せる敵は歩兵一小隊に過ぎざりき。
勝武屯營備隊は本夜半有刀なる敵軍陣に陣地を突破せられ、蘇軍戦

軍隊は逐次棄去し、勝武屯街道を南下す。
師團は工兵隊をして南街道上の橋梁を破壊せしむると共に直轄せる
挺進隊を派遣し、且師團挺進大隊、第一線部隊をして猛烈なる挺進攻
撃を行はしむ。

勝武屯營備隊（村上部隊）は連絡断絶して無線呼出にも應せず、命令
も傳達困難の状態に陥りしが、適く同部隊より一下士官連絡に來り、發
信装置は破壊し暗号書亦焼却し終りたるも、受信装置は健在する。一
旨報告ありしを以て師團は生文を以て後退を命令し續けたるも遂に
同部隊の一部の歸還を見るのみにして主力の状況は不明に終れり。
（後に此の部隊は北安方面へ脱出したること判明す）
壕壕方面に在りても敵は逐次陣地に接近して來たれるも前進部隊の

勇敢なる防禦戦闘と挺進部隊の取圍により敵の前進頗る鈍く、遂次
主陣地帯の攻圍準備につきつゝあり。

作戦第七日（八月十五日）

蘇軍は孫吳一勝武屯道上の橋梁を修理して遂次進出し鄭家橋糊の飛
行場附近に集結し又一部砲兵は階行社附近に進出して陣地を占領す。
師團は一部砲兵を以て之を射撃す。

此日敵の歩兵斥候は主陣地附近に潜入し來れるものあり。又戰車
並に敵騎兵等が陣地直前に進山せり等流言蜚語盛んに發生す。師團
は本夜歩兵第二百六十九聯隊を以て飛行場附近の敵を攻撃するに決
し、糧々準備整策する処ありしが其の實行に至らずして停戦する事
となれり。

十五時過早より一平十五日正午重大御放送あるに依り謹總すんし
との來電あり。時既に遅く機取の機を失したるも十七時頃配屬關東
軍特情報より日本降伏の放送をなしありとの通報に接し、師團長以

下愕然たるものありしが眞偽を尙確認する必要もあり、五八下一般の士
氣に關する問題もあるに依り一編外部に發表することなく世界各地
の無線放送を聴取せしめしかば、其の眞實なるを認め、二十時頃各
部隊長の集合を命じ日本の無條件降伏を傳達すると共に、五八下一般の士
て大局を誤ることなき様、聲淚共に下るの師團長の命令並に訓示を傳
達す。

獨立混成第一三五旅團に対しては電話故障の爲十分師團長の意圖を
傳ふる事能はざりき。尙當時無線は不通なりき。

作戰第八日（八月十六日）

師團長は停戦の大命により片山參謀を軍使として陣地外に差遣し、五八下一般の士
軍に對し停戦を申し込みたり。

片山參謀は藤軍司令官と会見し概ね左の如き條々の條件を聴取して
正午頃歸還す。

日本軍は本十七時迄に一切の戦闘行動を停止すること

0781.

一日正午は、明十七時迄に陣地内指定の位置に武器を集積したる後、
兵官官地帯に全員集結のこと

三 通信連絡機關は一切使用を禁じ、諜報に提言すべし

四 尚今一切の毒藥物施設、武器、資材の破壊抛却を禁止す

五 石の諸突頭を犯す時は直ちに攻撃を開始し、撤滅す

尙第二項の兵器集積所は陣地内五ヶ所に指定せられ、現地に於て集積敷置を記號せる警標と共に及願の爲差控せらるゝ、諜報將校に引渡すこと

師團長は右の諸条件を何等の修正なく其の儘受領するに決し再び片山珍謀を交渉の爲差遣す。

尙諜報司令官より師團長に於て、明十七日正午孫吳園場十字路附近に於て会見を申し込み来りたるを以て師團長は之を承諾す。

此後各部隊は多少の勦捕を併して概ね所命の通り停戦の主旨を一成兵に至る迄徹底せしめ武器を集積し、集積位置に到る準備を整へた

り。

軍旗は午前五時迄に無事奉焼す。

尙阿部少佐の指揮する砲重兵第一二三聯隊は同少佐の命により部隊を解散せるを以て同部隊の兵は三、五、行動するに至れり。

作戦第九日（八月十七日）

部隊は概ね豫定の通り集結す。

師團の人員は關城と共に應召兵、義勇隊員等を收容して陣地に籠りし際は概ね二分七千名なりしが本日集結地に集合せる人員は概ね一万五千名に過ぎず。

師團長は蘇軍第二軍司令官セジューヒン中将と会見の後集結地に到れり。

本日に到るも尙環礮及二站の陣地占領部隊並に各所に散在する挺進隊は未だ戦闘行動を停止せず、果敢なる戦闘を繼續するもの鮮なからず。

師團は停戦命令の徹底を期する為糧令其他為し得る限りの手段を講じたるも容易に所期の目的を達することを得ず。

作戦第十日（八月十八日）

蘇軍側の調査開始せらる。

調査官は主として蘇軍司令部關係の將校にして我が師團長以下各級幹部に対し執拗綿密に行ひたり。

調査は八月二十五、六日頃迄進續行はれ、最初は主として師團の人員と引渡兵器の員數の照合を嚴密に行はれ、其後各調査官の担任事項に基き師團の作戦計畫、編制裝備、教育、築城等各級の事項に就て調査せらる。

四 彼我の損害

一 我が損害

師團の戦團は主として前進部隊及挺進部隊を以て行はれ且終戦と同時に通信網を制せられ且戦團實行の現地に行く事も禁止せられ

し為損害の實數を知得するを得ず。

只作戦開始當時總數二万七千名の人員は終戦後集結せるもの約一万五千名にして約一万二千名の差を生じたり。此の中大多數は隨意に部隊を離脱して北安方面に逃遷せる者にして實際の戦死者は約五〇〇名程度と判断せらる。但し孫吳より脱出した者の中途中満、鮮人若くは蘇軍の襲撃を受け死亡せる者は鮮少ならざるべし。又北安迄離脱して遂に抑留せられたる者も多數ありたり。

蘇軍の損害

蘇軍の損害に就ては不明なるも勝武屯衛備隊及緩陣陣地の戦闘に於て相當の敵を殺傷したる事は事實なり。又二站隙地に於ては敵戦車に若干の損傷を覺へたり。

五 終戦後の情況

蘇軍の行動

師團と交戦したる蘇軍部隊は約一週間程孫吳附近に滞在したる後

0785

哈爾濱方向に南下せり。

右の跡には内務人民委員部の中佐を長とする警備隊遺留し治安警備に在す。

2. 師團の給養は我軍の陣地内に集積せる食糧を使用す。

蘇側は定量使用して可なる旨指示せるも師團は前途の見通しつかざるを以て定量の七割を使用する事とせり。

3. 建設隊の派遣

八月下旬頃より九月初旬に亘り蘇軍は孫吳官舎地帯に集結せる師團を千名宛の部隊に區分編成し之を建設隊と呼稱し、其の行先を巧みに偽囑しつゝ、蘇領内に誘導せり。

九月十日頃迄に主隊を四變せしめ後には尙若干の將校、患者等遺留せるも、之も間もなく蘇領へ移送せられたり。

第四 其の他の状況

一、在留邦人、開拓團等の状況

孫吳附近の在留邦人は極めて少数なりしを以て悉く軍人軍属の家族六四と行動を共にせしめたり。

開戦と同時に計登に基き家族、在留邦人は悉く師團の陣地内に在る歩兵第二百十八聯隊、同第二日七十聯隊等の兵營内に收容す。然れども作戦経過を考慮し速かに後方哈爾濱へ後退せしむることに変更し、八月十二日出發全員北安方向へ後退せしめたり。

後方附近の一般邦人及軍人家族は當初豫定に基いて籠城の覚悟を定め陣地内に入りたるも、戦闘開始後其の不利なるを知り十二日夜過く孫吳附近に後退し來れり。然し乍ら時既に孫吳―北安間の鐵道不通となりし為止むを得ず孫吳の陸軍官舎の一角に集結せる儘停戦となりたり。

ダイガク開拓義勇團の生徒は一部直路北安方面へ後退せるも大部は孫吳の陣地内に收容して後方勤務等に從事す。

三 滿洲國政府機關

0787

松本無龍江省長は部下若干名と共に黒河より引揚げ師團司令部へ來着せり。師團長は省長の希望に基き新京に後退して状況を滿洲國政府に傳達する為證明書を與へて去らしめたり。其の他の多數日系官吏は皆師團の陣地内に入り或は北安、孫吳地區に在りて防禦戰闘に或はゲリラ戰に従事せり。

三、滿洲國軍及警察の状況

開戦前に於ては滿軍の一師團四站附近に在りて瑗瑋、齊々、哈爾濱を守備する為陣地の構築に任じ又二站附近にも若干の滿軍陣地構築に當りありしが其後の状況は不明なり。四站附近の滿軍は日系將校を殺し四散せりとの事なり。

四、滿人、鮮人の状況

戰場附近に於ては動搖はありたるも敢て我軍に対して積極的に不利を図る如き事はなかりき。

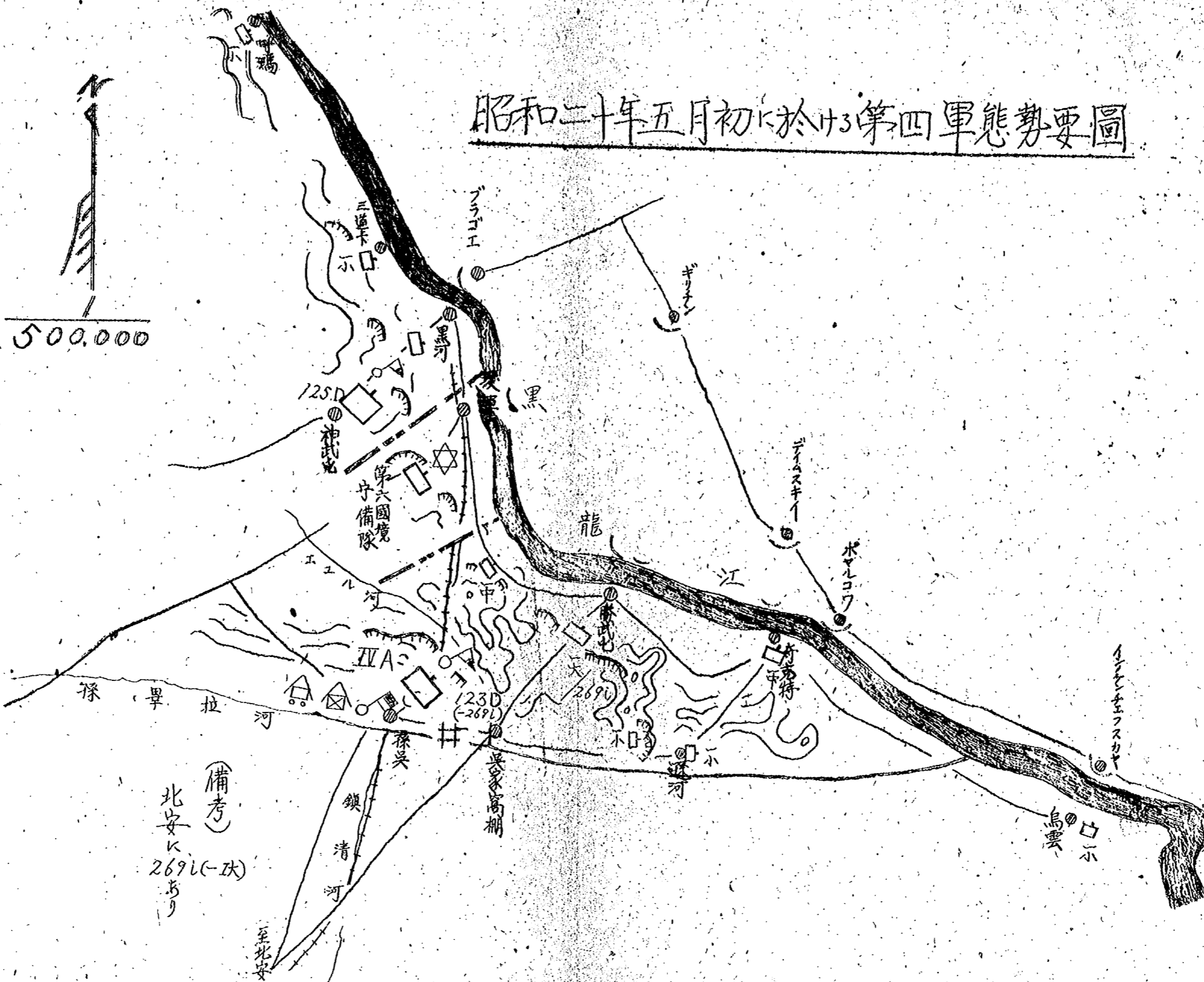
但し我軍の離隊兵を襲撃して之を殺害し或は戦死者の兵器裝具を掠

奪し又は官會其他の空屋より家具物品を盗取等のことは多々ありた
り。孫英より後返せる邦人及軍人家族等は北安に於て猛烈なる掠奪を
蒙り殆んど着のみ着のまゝとなりたり。

0789

昭和二十年五月初に於ける第四軍態勢要圖

附圖第一



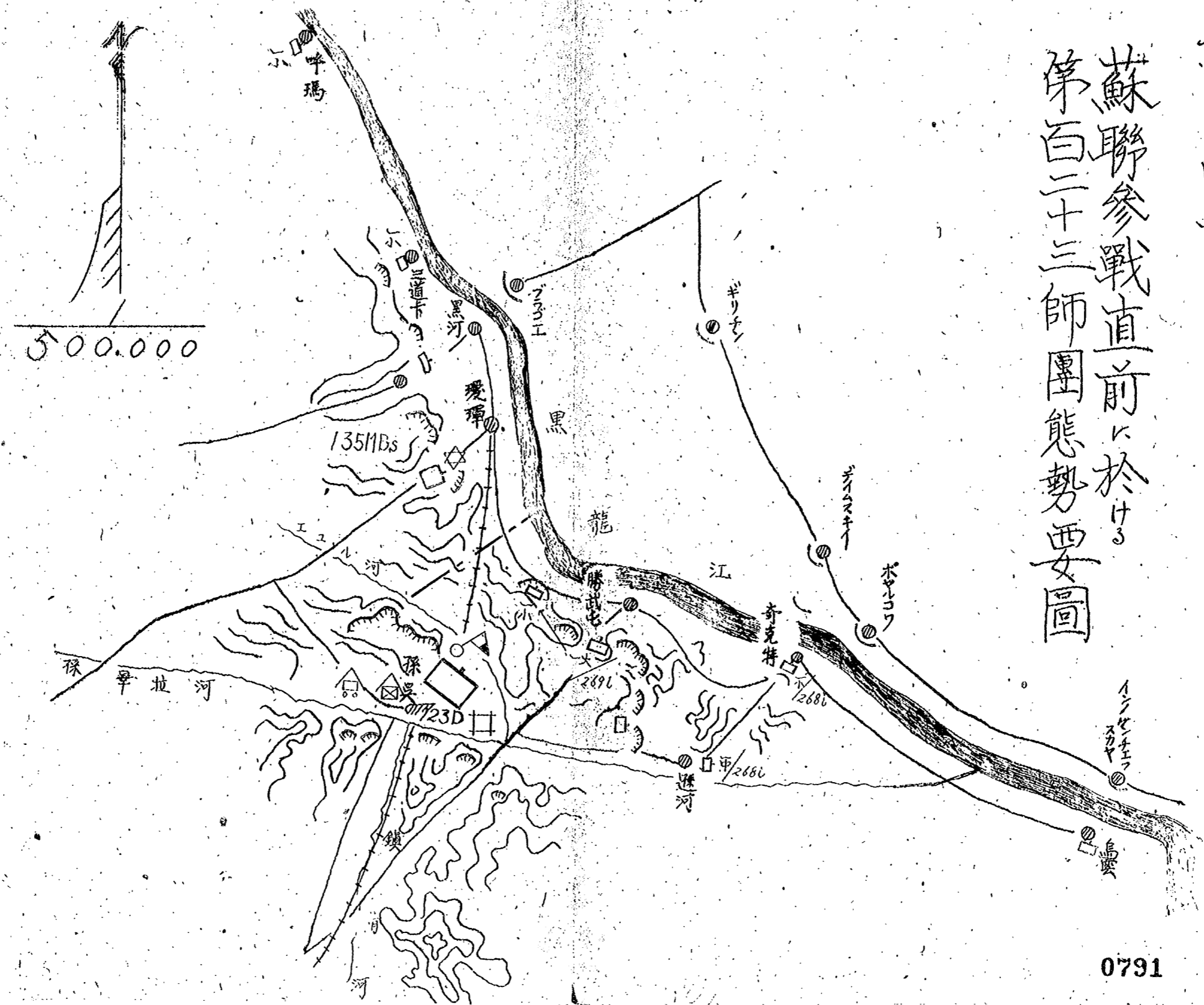
500,000

(備考)
北安に
269 (-269)あり

0790

附圖第二

蘇聯參戰直前に於ける
第百二十三師團態勢要圖



0791

孫吳附近123D防禦陣地配備及作戰經過要圖 附圖第三



250,000
10K 20K

- 部隊区分
- | | | | | | | | |
|------------------------------|------------------------------|----------------------------------|----------------------|------------|-------------|------------------|----------------------------|
| 荒神山地區隊
270L
A-大
P-中 | 鹿島台地區隊
268L
A-大
P-中 | 花見山地區隊
267L(-天)
A-中
P-中 | 砲兵隊
A-中
24H(4) | 工兵隊
P-中 | 南地區隊
T-中 | 挺進隊
師団
挺進隊 | 予備隊
267L
挺進大隊
T-中 |
|------------------------------|------------------------------|----------------------------------|----------------------|------------|-------------|------------------|----------------------------|

瓊瑋地區隊 (135 MBs)
主力を以て瓊瑋陣地
一部を以て二站陣地を死守す。

瓊瑋地區隊 (135 MBs)
瓊瑋地区隊は、前哨を以て瓊瑋陣地を死守す。一部を以て二站陣地を死守す。

挺進大隊
南陽山陣地を占領し、敵の前進を阻止す。其の挺進攻襲を任す。

勝武(2)準備隊
敵の前進を遂滞せしめ、後主陣内予備隊の位置に後退す。時機は別命す。

烏丸(2)特三連隊
敵の渡河企圖を警戒す。敵渡河と接敵し、後退し、挺進隊と残道潛伏せしむ。